

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向けて

ひとつ「働き方」変えてみよう！

▶ご意見はこちら

[トップページ](#) > ワーク・ライフ・バランス メールマガジン「カエル！ジャパン」通信



ワーク・ライフ・バランス メールマガジン 「カエル！ジャパン」通信

はじめに

～現場で聞かれるこんな声。メールマガジンをぜひご活用ください。～

「職場において、ワーク・ライフ・バランスについての理解を深めようと取組を推進しているものの、なかなかうまく進まない。ワーク・ライフ・バランスの意義を裏付けるデータや、企業等の取組を後押しする各種施策についての情報、他企業での成功事例等、有効な情報を提供して活用したいけれど、何か良い方法は…」と、現場ではこんな声が聞かれます。

このため、ワーク・ライフ・バランスに関する各種施策、具体的な取組事例、有識者の話、各種データ等の情報を、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むすべての方に、メールマガジン形式でお届けします。

ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて、本メールマガジンの情報を各職場、ご家庭でご活用いただければ幸いです。

メールマガジンの内容は？

仕事と生活の調和推進室から、配信のご登録をいただいた方々へ以下の内容で、1か月に1回配信します。

- (1) ワーク・ライフ・バランスについての関係省庁、地方公共団体、労使団体、関係団体等の最新情報
- (2) ワーク・ライフ・バランスに関連する調査・統計、論文・著作物等の紹介

(3) ワーク・ライフ・バランスを推進するための企業向けまたは企業で働く人向けの施策
の紹介

(4) ワーク・ライフ・バランスに関する有識者の話

登録 / 解除

バックナンバー

プライバシーポリシー

※パソコンでのご利用に限ります。

※配信先の変更をされる方は、
こちらで登録の解除を行った
のち、新規登録を行ってくだ
さい。

[▲ このページの上へ](#)

[トップページ](#) > ワーク・ライフ・バランス メールマガジン 「カエル！ ジャパン」通信

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向けて

ひとつ「働き方」変えてみよう！

▶ご意見はこちら

▶サイトマップ

[トップページ](#) > [ワーク・ライフ・バランス](#) メールマガジン「カエル！ ジャパン」通信 > [バックナンバー](#) > 第1号

第1号 平成21年10月30日 配信

内閣府仕事と生活の調和推進室 発行

Office for Work-Life Balance, Cabinet Office, Government Of Japan

[内閣府仕事と生活の調和推進室ホームページへ](#)

発行：内閣府 仕事と生活の調和推進室

■□ カエル！ ジャパン通信 Vol.1 □■

2009年10月30日 発行

創刊号

創刊のごあいさつ

みなさまこんにちは。

今月より、毎月一回、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する各種取組や施策などの様々な情報を掲載した「カエル！ ジャパン通信」をお届けします。

みなさまが、日々、職場やご家庭において、仕事と生活の調和の推進に取り組む上で役に立つ情報をお届けしてまいりたいと思います。

仕事と生活の調和の実現は、一朝一夕に達成し得るものではありません。

みなさまの日々の取組の積み重ねが社会全体を動かす原動力となります。

内閣府としても、みなさまの取組を後押しすべく、仕事と生活の調和の必要性を社会に向けて積極的に発信してまいります。

本メールマガジンを仕事と生活の調和の取組を進める様々な場面で、ぜひご活用ください。

内閣府 仕事と生活の調和推進室長 松田敏明

今月のテーマは、『仕事と介護』です。

社会の高齢化と家族形態の変化が同時に進む中、働き盛りのビジネスマン・ビジネスウーマンであっても、親の介護に直面する状況が生じています。

そこで、今回は、「介護」を切り口にワーク・ライフ・バランスについて考えます。

《目次》

★《有識者インタビュー Vol.1》

津止 正敏 教授（立命館大学産業社会学部）

「男性の介護実態と家族介護支援の課題について」

★《統計・調査トピックス》

労働政策研修・研究機構 2003年
「育児や介護と仕事の両立に関する調査」 他

★《最新情報》

平成21年度 子育てを支える「家族・地域のきずな」フォーラム 岩手大会【内閣府】 他

★《有識者インタビュー Vol.1》

◎津止 正敏 教授(立命館大学産業社会学部)
「男性の介護実態と家族介護支援の課題について」

働き盛りの男性であっても、明日から親の介護をする必要に迫られるかもしれません。

今回は、企業において第一線で働いている男性たちの働き方を考える上で、重要な要素であるにもかかわらず、これまであまり意識されることのなかった男性の介護の実態についてお話を伺いました。

●男性介護者は、「自分の経験を聞いてもらいたい」

「高齢化社会に対応して、2000年に始まった介護保険制度も10年目を迎えようとしています。以前は家族介護の担い手といえば女性が中心でしたが、今は男女問わず、仕事があろうとなかろうと、その場に居合わせた者が介護者の役割を担わざるを得ない状況です。」

「在宅介護には、期間の長期化、介護者と要介護者双方の高齢化・重度化という新たな問題が生じています。そして、要介護者本人もその家族も深い葛藤の中に置かれています。男性介護者による不幸な事件……高齢者虐待や介護心中、介護殺人など……はその顕著な例といえるでしょう。」

「日本では、要介護者の8割以上が在宅で、家族とあるいは一人で暮らしています。家族にはそれぞれの歴史や事情があり、『自分たちの手で何とかしたい。』と思っている人も少なくありません。家族の関係に目をつぶったままでは、介護がうまくいくはずがない。私は、本人支援と同時に、家族介護者をも視野におさめたケア、つまり家族介護者支援の必要性を強く感じます。」

「老老介護やシングル介護、週末介護など、介護の形が多様化し、若くて体力のある介護者ばかりではなくなってきました。高齢化し孤立化、閉塞化する介護。これを立て直すためには、まずは、介護の現場で起きていることを『見える化』していくことが必要です。」

「一方で、介護というと負担感ばかりが目立ちますが、調査からは違った一面も見えてきます。それは、介護を行う中で、介護者たちがそこに生きがいさえも感じるようになってきているという点です。そして、そうした自分の体験を、意味あるものとして捉え直したり、『誰かに聞いてもらいたい……』と考えている人も少なくありません。家族介護者の集いや介護体験記などを通して、多くの人たちと一緒に介護感情を分かち合い、さらには、地域の『経験知』として蓄えていく……そんな取組みが求められています。」

●社員のために企業ができること

「企業でも経験知を蓄えていくことが重要です。介護休業制度やテレワーク(在宅勤務制度)を導入しているものの、取得が伸びず、ニーズすら掴みきれていないというのは、やはり経験知が不足しているからでしょう。」

「自分だけは介護者にならない、と思うのは大きな間違い。介護と仕事をどのようにやりくりし

ているのか、社員の事例を集め、社内セミナーなどで介護問題を抱えた人たちの生の声を聞いてもらってはどうか。また、自治体などの支援制度について大まかにでも知っておくことも大切です。あらかじめ備えがあるのと、備えがないまま介護の場面を迎えるのとでは大きく違いますから。」

▶▶ [津止先生のお話の続きはコチラから！](#)

将来をイメージし、介護への備えを蓄えておくこと、そして、退職後を見据え、「自分は何ができるのか」を今から考えることも、一種のワーク・ライフ・バランスですね。

★関連情報★

【男性介護者と支援者の全国ネットワーク】

2009年3月に発足した男性介護者と支援者の全国的なネットワークづくりを行っている団体です。津止教授が事務局長を務めています。会報には男性介護者たちの様々な介護体験が掲載されています。

▶ <http://dansei-kaigo.jp/>

【男性介護者100万人へのメッセージ 男性介護体験記】

全国の介護に携わる男性たち152人から寄せられた喜怒哀楽に満ち満ちた介護体験記

▶ <http://dansei-kaigo.jp/clm/column/tpcs/1250668451.html>

【男性介護白書】

全国調査に基づき、家族介護者の4人に1人を占める男性介護者たちの実態を明らかに。

▶ <http://www.kamogawa.co.jp/moku/syoseki/0117/0117.html>

★<<統計・調査トピックス>>

◎「育児や介護と仕事の両立に関する調査」労働政策研究・研修機構 2003年

●介護経験者の半数近くが介護のために仕事を休んだ経験あり

過去10年間に2週間以上、家族の介護をしたことのある人のうち、半数近くの46.7%の人がそのために仕事を「休んだことがある」と回答しています。その際に、正社員で「年休を利用した」人は61.4%、「介護休業制度を利用した」人は20.0%（複数回答）。

●仕事と介護をうまく両立できている介護経験者は4人に1人

介護を「したことがある」・「現在している」人のうち、「介護と仕事をうまく両立できている」のは23.2%、「仕事と介護のどちらも中途半端で不満がある」のは22.7%、「仕事の影響があり介護に満足していない」又は「介護の影響があり、仕事に満足していない」のは17.7%となっています。

▶ <http://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/doko/h1507/subindex.html>

※調査対象：40歳代及び50歳代の民間企業雇用者男女 3,000人（調査会社のモニター会員よ

り抽出)

調査方法: 郵送による調査票の配付・回収

有効回答回収率: 81.5% (2,444人)

◎ 「平成19年就業構造基本調査」総務省

● 家族の介護・看護のために仕事を辞めた雇用者は129,400人

2006年10月以降の1年間に「家族の介護・看護のため」に仕事を辞めた雇用者は、129,400人であり、同時期に離職した全雇用者の2.0%となっています。

→ <http://www.stat.go.jp/data/shugyou/2007/index.htm>

◎ 「平成19年度雇用均等基本調査」厚生労働省

● 介護休業取得者は、男性0.03%、女性0.11%

2007年度における介護休業取得者数は、常用労働者の0.06%となっています。男女別に見ると、男性は0.03%、女性は0.11%。

→ <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/71-19.html>

◎ 「介護休業制度の利用状況等に関する研究」労働政策研究・研修機構 2006年

● 介護開始時に就業していた者のうち、約2割が介護開始当時の仕事を辞めています。ほとんどの労働者は介護休業を取得せずに、年休、欠勤、遅刻、早退で介護に対応しています。

● 介護の状態が安定した時期に、雇用労働者の4人に1人は、勤務時間短縮等の措置に係る労働時間の調整を行っています。しかし、そうした措置が勤務先で制度化されている者は少なく、多くの場合、インフォーマルに行われています。

→ <http://www.jil.go.jp/institute/reports/2006/073.htm>

※当該研究は、高齢の家族介護と仕事の両立実態を明らかにするため、家族における介護分担、介護開始時の態勢作りと仕事との両立実態、介護の状態が安定した時期の仕事との両立実態について、ヒアリング調査とアンケート調査を実施し、これらの観点から労働者にとって有効な介護休業制度の課題を明らかにしたものの。

★ <<最新情報>>

★ イベント情報 ★

◇ 平成21年度 子育てを支える「家族・地域のきずな」フォーラム

【内閣府】

開催日時: 2009年11月3日(火)

開催場所: いわて県民情報交流センター アイーナ

→ <http://www8.cao.go.jp/shoushi/kizuna/forum/iwate.html>

開催日時: 2009年11月15日(日)

開催場所: 福井県生活情報館 ユー・アイふくい

→ <http://www8.cao.go.jp/shoushi/kizuna/forum/fukui.html>

◇父親の育児休業シンポジウム【厚生労働省】

青森 開催日時: 2009年11月12日(木)

開催場所: 青森県観光物産館アスパム

※12月以降は、広島、大阪、名古屋、福岡で順次開催

※開催時間はいずれの会場も16:00～18:00

シンポジウムの詳細はこちら

▶ <http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/10/tp1019-1.html>

「父親のワーク・ライフ・バランス応援サイト」はこちら

▶ <http://www.papa-wlb.jp/>

◇ワーク・ライフ・バランス・コンファレンス

～第3回 ワーク・ライフ・バランス大賞 表彰式～

【(財)日本生産性本部】

開催日時: 2009年11月16日(月)

開催場所: 如水会館 スターホール

▶ <http://www.jisedai.net/new/conference03.html>

★取組事例紹介★

◇仕事と生活の調和推進プロジェクト 参画企業リレー連載【厚生労働省】

「仕事と生活の調和推進プロジェクト」に参画している企業の取組状況について連載スタート。第一回は電通。

▶ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/sigoto-seikatu/relay.html>

★調査結果紹介★

◇子育て期の男女の仕事と子育ての両立に関するアンケート調査

【厚生労働省】

(調査結果概要)

仕事と家事・子育ての優先度の希望と現実をみると、正社員男性の58.4%、正社員女性の52.3%が希望としては「仕事と家事・子育てを両立」させたいと考えているが、現実には、男女ともに「仕事優先」の割合が高くなってしまっている(男性74.0%、女性31.2%)。

▶ <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/09/h0929-1.html>

★制度施策解説★

◇「短時間正社員制度」の導入について【厚生労働省】

「短時間正社員制度」を導入する際の成功の五つのポイントや、制度の導入・定着を支援する助成金について解説しています。

▶ <http://tanijikan.mhlw.go.jp/manual/index.html>

▶ <http://tanijikan.mhlw.go.jp/manual/assist.html>

◀編集後記▶

メルマガ第1号いかがでしたか。みなさまからのご意見・ご感想お待ちしております。

さて、子持ち共働きの我が家では、夫婦で分担して子どもの“お迎え”に行きます。

ただ、お互いの仕事が忙しいときは大変！お迎えが一方に偏ると仕事がたまり、そのストレ

スが配偶者に向かいます。「お迎えバランス」の確保が我が家のWLBの最大の懸案です(NH)。

カエル！ ジャパン通信へのご感想やご意見、ご要望をお寄せください

- このメールマガジンを今後よりよいものにしていくために、是非、ご感想やご意見をお寄せください。また、テーマや内容などについてのご要望をお知らせください。

このメールマガジンへのご意見・ご要望等はこちらから

<https://form.cao.go.jp/wlb/opinion-0001.html>

※このメールは送信専用メールアドレスから配信されております。

このままご返信いただけませんのでご了承ください。

カエル！ ジャパン通信 配信停止希望の場合

- このメールの登録解除をご希望の方及び配信先メールアドレスの変更をご希望の方は、「登録／解除」画面で、電子メールアドレス等を入力してください。
※メールアドレス変更をされる方は、お手数ですが、一度登録を解除していただいたのち、再度登録を行ってください。

登録解除及び配信先メールアドレス変更はこちらから

<http://www8.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/tetsuzuki.html>

- 内閣府仕事と生活の調和推進室ホームページはこちらから

<http://www8.cao.go.jp/wlb/>

発行

内閣府 仕事と生活の調和推進室

100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1 中央合同庁舎4号館

TEL:03-3581-9268

[▲このページの上へ](#)

[トップページ](#) > [ワーク・ライフ・バランス メールマガジン「カエル！ ジャパン」通信](#) > [バックナンバー](#) > 第1号

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向けて

ひとつ「働き方」変えてみよう！

▶ご意見はこちら

▶サイトマップ

[トップページ](#) > [ワーク・ライフ・バランス](#) メールマガジン「カエル！ ジャパン」通信 > [バックナンバー](#) > 第2号

第2号 平成21年11月30日 配信

内閣府仕事と生活の調和推進室

Office for Work-Life Balance, Cabinet Office, Government Of Japan

[内閣府仕事と生活の調和推進室ホームページへ](#)

発行：内閣府 仕事と生活の調和推進室

■□ カエル！ ジャパン通信 Vol.2 □■

2009年11月30日 発行

今月のテーマは、『婚活』時代の働き方です。

「婚活」という言葉を聞いたことがありますか。

今、結婚したいと思っている人の中には、「就活（就職活動）」を行うように、結婚へ向けて活動する「婚活」を行う人も多くなっています。なぜ、婚活が行われるようになってきたのか。そこには、私たちの「働き方」も関係しているようです。

そこで、今回は、「婚活」時代における「働き方」について考えてみたいと思います。

《目次》

★《有識者インタビュー Vol.2》

白河 桃子 氏

『婚活』時代の現場から見える、女性たちの働き方と結婚について

★《統計・調査トピックス》

国立社会保障・人口問題研究所 2005年

「第13回 出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査 独身者調査」

★《最新情報》

・平成21年度 啓発パンフレット「子育てを支える『家族・地域のきずな』」【内閣府】

・ハンドブック 改訂版

「父親のワーク・ライフ・バランス～応援します！ 仕事と子育て両立パパ～」【厚生労働省】

★《有識者インタビュー Vol.2》

◎白河 桃子氏（ジャーナリスト）

『婚活』時代の現場から見える、女性たちの働き方と結婚について

たくさんの未婚の男女が「将来結婚したい、子どもを持ちたい」と考えているのに、晩婚化・非婚化が急激に進んでいます。

今回は、企業での働き方を考える上で、見過ごすことのできない「婚活」についてお話を伺いました。

●結婚したくてもできない

「かつての日本人は、お見合いや職場恋愛など、男女が結婚しやすい環境にいました。未婚者がいれば周囲が背中を押してくれるような、自動的結婚システムがあった時代です。ところが、1980年代に入ると自由恋愛市場となり、バブルが崩壊。就職氷河期で非正規雇用者が増え、会社の枠組みに入る人々が激減します。特に女性は一般職での入社が減り、お嫁さん候補が減少。職場結婚は衰退の道をたどります。」

「経済的に安定した結婚生活を営める人が大幅に減ったことで、構造的に結婚しにくく、結婚したくてもできない状況になってしまいました。結婚をするため、意識的に活動する必要があります。これが『婚活』です。もっと外へ出よう、自分から動こうという提案です。」

「2002年の山田昌弘中央大学教授の調査によると、東京では、未婚女性(25～34歳)の40%が年収600万円以上の男性との結婚を望んでいます。しかし、未婚男性(25～34歳)のうち、実際に年収が600万円以上なのはわずか3.5%でした。結婚しても生活水準を下げることなく暮らし、子育ての間は仕事をしないという前提で、女性は男性に高収入を求めます。多くの女性が『出産したら就業継続は厳しい、仕事と子育ての両立は難しい』と考えているのです。」

「これに対し男性は、自分の収入だけでは豊かな生活を築けないと自覚し、妻に仕事を続けて欲しいと思っています。専業主婦を望む声が減ったのです。また男性の場合、恋愛で傷つくのが怖いからと自分から動かず、ますます受け身に。恋愛引きこもりや、非正規社員の方の中には結婚を諦めてしまう人が多いようです。」

「婚活で大切なのは、意識の変換です。『男が働き、女が家庭を守る』というこれまでの昭和的結婚観では、もはや相手は見つかりません。女性が『相手が好きだから私も働こう』と考え、男性も育休取得などが盛んになり、家庭に参画できるようになれば、少しずつ晩婚化・非婚化が解消され、ゆくゆくは少子化の改善に繋がっていくのではないですか。」

●企業として何ができるか

「調べによると、婚活中心世代の4人に1人が週に60時間以上働いているとか。家と会社の往復だけで結婚できる時代は終わりました。社員にある程度の自由な時間を確保するとともに、女性の就業継続を可能にし、細く長く働きつづけたい決意をサポートしていくことが重要です。」

「企業はまず、セミナーなどで、共に働き、子育ても一緒に行っているという夫婦に、社員が接する機会を作ってみてはどうでしょうか。ロールモデルの不在から、自分の将来に不安を抱いている若者が非常に多いようです。安心して仕事を続けようと思ってもらうために、結婚のメリットや人生の充実感をアピールすることも必要だと思います。」

▶▶ [白河さんのお話の続きはコチラから！](#)

少子化問題の原因と言われている晩婚化・非婚化。その要因や実態を理解し、ワーク・ライフ・バランスを整えることが、結婚しやすい環境に結びついていくのではないのでしょうか。(最近では、婚活の仲介を語る悪質な業者もいるので注意が必要です。)

★関連情報★

【書籍『「婚活」時代』】

白河氏と「パラサイト・シングル」の名付け親としても知られる家族社会学者山田昌弘教授の共著。晩婚化・非婚化が進む現代日本の結婚を巡る実態とその要因を明らかにする。

http://www.d21.co.jp/modules/shop/product_info.php?products_id=545

★<<統計・調査トピックス>>

今回のテーマである『「婚活」時代の働き方』に関連した統計・調査を紹介します。

◎「第13回 出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査 独身者調査」国立社会保障・人口問題研究所 2005年

- 「専業主婦」派が減少する一方で、仕事と育児の「両立」派が増加ライフコースとして、仕事と育児の「両立」を理想とする未婚女性は30.3%、「両立」をパートナーとなる女性に期待する未婚男性は28.2%で、第9回調査(1987年)と比べ、女性は11.8ポイント、男性は17.7ポイントの増加となっています。

一方、「専業主婦」を理想とする女性は19.0%、パートナーに期待する男性は12.5%で、特に、男性では、第9回調査に比べ25.4ポイント減と、急速な減少傾向がみられます。

また、今後、実際になりそうなコースとして「両立」を選んだ未婚女性は20.9%で、理想とする人の割合と比べると、9.4ポイント低く、理想の実現を難しいと考えている人が多いことがわかります。

※調査対象:18歳以上50歳未満の独身者 12,482人

調査方法:配票自計、密封回収方式

有効回答回収率:70.0%(8,734票)

http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou13_s/doukou13_s.asp

◎「職縁結婚の盛衰と未婚化の進展」

『日本労働研究雑誌 No.535』所収 労働政策研究・研修機構 2005年

- 本論文は、「出生動向基本調査」を用いて、結婚した男女の「出会い」のきっかけ及びその時代変化をみることで、未婚男女をとりまく結婚市場の変化を記述し、初婚率低下との関連を明らかにしたものです。
- 過去30年間の初婚率の低下量を要因分解すると、低下分の約5割が「見合い結婚」の減少によって、4割近くが「職場や仕事の関係で」の結婚(職縁結婚)の減少によって説明できることがわかります。
- 企業に勤めるほとんどの独身男女が、従来通りの長時間勤務であり、見合いや職縁結婚に代わる新たな出会いの場が開拓されてきた気配はありません。
- 1970年代にマッチ・メーカーとして企業が結婚に果たしていた役割の復活はおそらく不可能であり、企業や個人のワーク・ライフ・バランスに関する抜本的な意識改革なしには、今日の未

婚化は簡単には解消しない可能性が示唆されています。

→ <http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2005/01/pdf/016-028.pdf>

◎「少子化施策利用者意向調査の構築に向けた調査」 内閣府 2009年

- 結婚に関する支援の要望としては、「支援は必要ない」(29.6%)が最も多く、次いで「就労支援」(21.4%)、「出会いの場の提供」(20.4%)の他、「働き方見直しのための支援」(19.6%)も多くなっています(2.4 結婚に関する支援, P82)。

「支援は必要ない」と回答したのは男性より女性(特に地方圏)に多く、「出会いの場の提供」は、女性より男性の要望が高い傾向が見られます。また、「就労支援」、「働き方見直しのための支援」は、特に都市圏の女性の要望が高くなっています。

- その他「仕事と生活の両立」を含み、「少子化施策に関する取組」「子育て支援」等の調査結果を掲載しています。

※調査対象:全国から抽出した6自治体の住民 合計 12,000人(各自治体2,000人)

調査方法:郵送による調査票の配布・回収

調査時期:平成20年12月～平成21年1月

有効回答回収率:30.5%(3,660票)

→ http://www8.cao.go.jp/shoushi/cyousa/cyousa20/ikou/index_pdf.html

◎「インターネット等による少子化施策の点検・評価のための利用者意向調査(中間報告)」
内閣府 2009年

- 将来も「結婚するつもりはない」と回答した人は未婚者の4分の1に達しています(20歳～49歳の男女)。男性は、正規従業員とそれ以外(非正規、自営業、無職等)で結婚意向の有無の差が大きくなっています。一方女性は、正規、非正規従業員では大きな差がありませんが、自営業等の有職者及び無職の方に結婚意向のない人が多い(約4割)結果となりました(P15～17)。

- 結婚しない理由としては、「適当な相手にめぐり合わないから」が6割弱を占めて最も高くなっています。男女別に見ても最も多い理由となっておりますが、男性では「結婚資金、結婚後の生活資金の不足」、女性では「自由や気楽さを失いたくない」ということが、これに次いで高くなり、違いがある結果となりました(P18～20)。

- その他、仕事と生活の調和の他、重要な少子化対策や子育ての経済的負担の内容等について調査しています。

※調査対象:全国20歳以上49歳未満の男女10,054人

調査方法:登録モニターに対するインターネット調査

調査時期:平成21年10月2日～10月12日

→ <http://www8.cao.go.jp/shoushi/cyousa/cyousa.html>

★<<最新情報>>

★ハンドブック・パンフレット★

◇平成21年度 啓発パンフレット

「子育てを支える『家族・地域のきずな』」【内閣府】

▶ <http://www8.cao.go.jp/shoushi/kizuna/h21pamphlet.html>

◇ハンドブック 改訂版

「父親のワーク・ライフ・バランス～応援します！ 仕事と子育て両立パパ～」【厚生労働省】これから父親になる、又は子育て期にある男性が仕事と家庭を両立させた働き方を設計・実践するにはどうしたらいいのかについて解説しています。改訂版では、「パパ・ママ育休プラス」をはじめとした改正育児・介護休業法に対応した内容になっています。

▶ <http://www.papa-wlb.jp/#handbook>

★意見募集結果の紹介★

◇「今後の子ども・子育て支援策についての意見募集」の結果【内閣府】

総合的な「子ども・子育てビジョン(仮称)」(新たな少子化社会対策大綱)の策定に先立ち、広く国民の皆様から今後の子ども・子育て支援策についてのご意見を募集(平成21年10月16日～11月11日)し、312件のご意見が寄せられました。

▶ <http://www8.cao.go.jp/shoushi/10motto/07working/index.html>

★調査結果紹介★

◇男女間の賃金格差レポート【厚生労働省】

2008年においては、男性一般労働者の平均賃金水準を100.0とした時に、女性の平均賃金水準は67.8であり、長期的にみると格差は縮小しています。

▶ <http://www.mhlw.go.jp/bunva/koyoukintou/seisaku09/pdf/01.pdf>

◇2009年6月1日現在の高年齢者の雇用状況について【厚生労働省】

希望者全員が65歳以上まで働ける企業の割合は約45%と着実に進展

▶ <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/10/h1020-1.html>

◇「アジア地域(韓国、シンガポール、日本)における少子化社会対策の比較調査研究」
【内閣府】

「現在結婚していない理由」、「結婚支援策」、「結婚後の支援」を含んだ国民の意識や少子化対策に関する比較調査を実施しました。

▶ <http://www8.cao.go.jp/shoushi/cvousa/cvousa.html>

◇「インターネットによる全世代における少子化社会のイメージ基礎調査(中間報告)」【内閣府】

少子化社会に対する意識について、16歳～70歳代以上の方々に幅広くお聞きし、世代別を中心に性別、ライフステージ別にその特徴をまとめています。

▶ <http://www8.cao.go.jp/shoushi/cvousa/cvousa.html>

★研究報告紹介★

◇「仕事と生活の調和を推進する専門家養成のあり方に関する研究会」報告書【厚生労働省】

専門家養成の在り方や専門家の活用促進についての提言を取りまとめています。

▶ <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/10/h1020-2.html>

★取組事例紹介★

◇仕事と生活の調和推進プロジェクト 参画企業リレー連載【厚生労働省】

「仕事と生活の調和推進プロジェクト」に参画している企業の取組状況について連載しています。

▶ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukiun/sigoto-seikatu/relay.html>

★表彰受賞紹介★

◇「第3回 ワーク・ライフ・バランス大賞」受賞者発表【(財)日本生産性本部】

▶ <http://www.iisedai.net/new/wlbtaishou.html>

★イベント情報★

◇仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)講演会【厚生労働省】

大阪会場

開催日時:2009年12月9日(水)13:30~16:30(13:00開場)

開催場所:大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)

▶ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukiun/sigoto-seikatu/seminar.html>

◇官民連携子育て支援推進フォーラム 全国リレーシンポジウム【内閣府】

兵庫県大会

開催日時:2009年12月2日(水)13:00~17:30

開催場所:ラッセホール 2階ローズサルーン

※2月9日には茨城県大会を開催

▶ <http://www.itinfo.jp/relaysympo/>

◇父親の育児休業シンポジウム【厚生労働省】

開催日時:2009年12月2日(水)16:00~18:00(開場 15:30)

開催場所:エソール広島 多目的ホール

※1月以降は、大阪、名古屋、福岡で順次開催

▶ <http://www.papa-wlb.jp/symposium/index.html>

「父親のワーク・ライフ・バランス応援サイト」はこちら

▶ <http://www.papa-wlb.jp/>

《編集後記》

恋、LOVEって何だったっけ？

インターネットを悪用した結婚詐欺報道を目にして、ふと思ってしまった。じゃあ聞いてみよう、ということで、そのやや危ないハテナを、職場の後輩たちにぶつけてみた。恋と結婚について。30代男性は「うーん、難しいですね」と言葉を濁す。勘弁して下さいという表情。一方、女性の後輩は「恋は夢、結婚は現実です」とビシッとクールな答え。この後輩たちの答えに「婚活時代」の本質がギュッと凝縮している気が。最後に、ドイツの物理学者で文筆家のリヒテンベルクのコトバ。『恋は人を盲目にするが、結婚は視力を戻してくれる』うーん、こちらも深い。(K1)

カエル！ ジャパン通信へのご感想やご意見、ご要望をお寄せください

- このメールマガジンを今後よりよいものにしていくために、是非、ご感想やご意見をお寄せください。また、テーマや内容などについてのご要望をお知らせください。

このメールマガジンへのご意見・ご要望等はこちらから

<https://form.cao.go.jp/wlb/opinion-0001.html>

※このメールは送信専用メールアドレスから配信されております。
このままご返信いただけませんのでご了承ください。

カエル！ ジャパン通信 配信停止希望の場合

- このメールの登録解除をご希望の方及び配信先メールアドレスの変更をご希望の方は、「登録／解除」画面で、電子メールアドレス等を入力してください。
※メールアドレス変更をされる方は、お手数ですが、一度登録を解除していただいたのち、再度登録を行ってください。

登録解除及び配信先メールアドレス変更はこちらから

<http://www8.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/tetsuzuki.html>

- 内閣府仕事と生活の調和推進室ホームページはこちらから
<http://www8.cao.go.jp/wlb/>

発行

内閣府 仕事と生活の調和推進室

100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1 中央合同庁舎4号館

TEL:03-3581-9268

[▲このページの上へ](#)

[トップページ](#) > [ワーク・ライフ・バランス メールマガジン「カエル！ ジャパン」通信](#) > [バックナンバー](#) > 第2号